

おぼえよう 俳句を読むときは

- ① 季語から 季節をつかむ ② 見えるもの・聞こえるものを 思いうかべる
③ 切れ字（や・かな・けり）のところに、作者の 感動がこめられている

つぎの 俳句に 合う 意味を ア・イ・ウ から えらんで、記号を 書きましょう。

① 我と来て 遊べや親の ない雀

こばやし いっさ
小林一茶

ア おや 親の いない すずめに「いっしょに 遊ぼう」と 言っている。

イ おや 親すずめが 子すずめと いっしょに 遊んでいる。

ウ すずめの おやこ ひと 人を こわがって にげていく。

こたえ

② 雪とけて 村いっぱいの 子どもかな

こばやし いっさ
小林一茶

ア ゆき 雪が たくさん ふって、 子どもたちが 家の中 にいる。

イ ゆき 雪が とけて 春になり、 村じゅうで 子どもが 遊んでいる。

ウ ゆき 雪が とけて、 村から 子どもたちが いなくな った。

こたえ

③ 夏河を 越すうれしさよ 手に草履

よさぶ そん
与謝蕪村

ア なつ かわ 夏の 川で ぞうりを なくして しまい、 かなしく なった。

イ なつ かわ くさ 夏の 川に 草を ながして、 手で すくって 遊んだ。

ウ ぞうりを て も なつ かわ ぞうりを 手に 持って 夏の 川を わたるのが うれしい。

こたえ

④ やせがえる 負けるな一茶 これにあり

こばやし いっさ
小林一茶

ア やせた かえるに「負けるな」と おうえん している。

イ やせた かえるが、一茶との すもうに 負けて しまった。

ウ かえるが ふと いっさ かえるが 太るように、一茶が えさを あげている。

こたえ

